

第17回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2018/10/17)

テーマ：東日本大震災後の子ども支援—震災子ども支援室の取り組み—
場所：東北大学医学部6号館1階カンファレンス室（宮城県仙台市）

2018年10月17日、東北大学において第17回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーが開催され、東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室の加藤道代教授・一條玲香特任助教より「東日本大震災後の子ども支援—震災子ども支援室の取り組み」と題して講演いただきました。

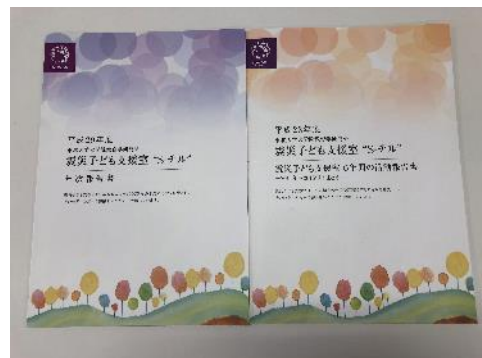
東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室（S-チル）は2011年9月に開室し、東日本大震災により大事なものを喪失した子供やその保護者等らの支援を行っています。活動内容は①当事者支援（相談活動、里親支援、学習支援）②支援者支援 ③普及・啓発（シンポジウム、出前授業など）④に情報収集 ⑤調査・研究 ⑥広報活動など、多岐にわたります。

はじめに加藤道代教授より「震災子ども支援室（S-チル）の取り組みから見える被災地の変化」と題して、活動開始にあたって、既存の支援と被災者のニーズを参照しながら支援対象や活動内容を決定していった経緯や、ニーズの変化とともに活動内容を見直し、変えていった経過が紹介されました。その後、一條玲香特任助教より「震災子ども支援室における相談とその対応」と題して、震災後7年目までの電話相談について、相談内容、相談件数、相談者の地域などについてご報告いただきました。

ご講演後は、様々な分野の方々と遺児孤児を取り巻く環境、また、支援の関わりのある方に関する課題などについて、活発な議論がなされました。



会場の様子



震災子ども支援室“S-チル”報告書

文責：奥山純子（災害医学研究部門）